平成３０年度

全国学力・学習状況調査

指導の改善策

－ 国語編 －

旭川市教育委員会

国語編

課題の改善策

２～９ページ

○今年度の国語Ｂの「正答率」「誤答例」「無解答率」などの詳細な分析から，課題の見られた設問を小・中学校でそれぞれ２問ずつ取り上げ，当該の単元における指導の参考になるよう，具体的な授業プランを作成しました。

「知識及び技能」の指導のポイント

１０～１５ページ

○今年度も含め過去に出題された国語Ａの設問の詳細な分析から，児童生徒に十分身に付いていない内容を整理しました。
○小・中学校９年間の系統性・連続性を踏まえ，指導に適した題材と指導の際のポイントについて示しています。

国語科の授業づくりのステップ（単元・本時）

１６～１７ページ

○国語科の授業づくりを進める手順やその際に大切にしたいポイントについて，「単元編」「本時編」として整理しました。
○Ｐ２～９の「課題の改善策」においても，このステップで授業づくりを行いました。

国語科の授業改善のポイント

１８～１９ページ

○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のポイントとして，「見通し」，「対話」，「振り返り」の工夫について，具体的な授業例において示しました。
○「国語科の授業づくりのステップ」ともリンクしており，日常の授業づくりの際に活用してください。

深い学びに導く教師の言語技術

２０ページ

○国語科をはじめとしてどの教科等においても教科横断的に活用できる「児童生徒の思考を深める発問・指示」について，具体例とともに整理しました。
○実際の活用場面として，Ｐ２からの「課題の改善策」やＰ１８の「国語科の授業改善のポイント」の本時案にも示しています。

【旭川市版】国語学習プリント

２１ページ

○今年度も含め過去に出題された設問の詳細な分析から，本市の児童生徒が苦手としていることが明らかとなった内容について，学習プリントを１５枚作成しました。必要なプリントをＨＰからダウンロードして御活用ください。

小学校・中学校学習指導要領　国語 目標及び指導事項一覧表

２２～２５ページ

○国語科の授業づくりにおいては，指導事項に基づいた「身に付けさせたい力」を明確にし，９年間の系統性を踏まえて当該学年に適した目標を設定することが大切であることから，指導事項の系統性を分かりやすく一覧として示した本資料を作成しました。

課題の改善策１

小学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小Ｂ１三　話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる。

自分たちの言葉の使い方を見直すことについて，「北川さん，小池さんのいずれかの意見を取り上げ，そのことに対しどう考えるのか」等の条件を踏まえ，松山さんの立場になって，自分の考えをまとめる。

学習指導要領における領域・内容

〔第５学年及び第６学年〕話・聞エ
〔第５学年及び第６学年〕書ウ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！

①自分の思いをもつために必要な「相手の話の中心」を聞き取ることができていない。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・相手の話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりする。（小3，４　話すこと・聞くこと　エ）

＜授業プラン＞

第３学年「よい聞き手になろう」教科書上Ｐ３２

単元を通して身に付けさせたい力

○友達が話す内容の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりする力（話すこと・聞くこと　エ）

単元を通して行う言語活動：大好きなものについて紹介し、質問や感想を述べ合う。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①「単元を通して行う言語活動」と学習の流れを知り，単元の見通しをもつ。	■教師のスピーチから学習をはじめ，児童の質問や感想を受け付ける。 ※自分たちの質問や感想が，教師をよく知ることにあまり結び付いていないことに気付かせ，聞き方を身に付ける本単元の学びの必要感をもたせる。
第二次（3時間）	②どんな「大好きなもの」について話をするか考える。	■話題が膨らみそうな題材を選定させる。 ※ペアやグループで相談することにより，全ての児童が自分の思いをもてるようにする。
	③「大好きなもの」について，内容や理由を明らかにし，話の組み立てを考える。	■伝えたいことの中心を明確にさせる。 ※次時で交流する児童とは別の児童と助言し合う場を設定し，全ての児童がスピーチ原稿を書けるようにする。
	④友達の話を聞き合い，内容や理由について質問したり，感想を述べたりする。	■４人程度のグループで交流させ，その様子を動画などで記録化し，振り返りに活用する。 ■１人の話とその交流が終わるごとに，質問や感想のよさを全体で共有することにより，全ての児童が，話の中心を踏まえた質問・感想を述べられるようにする。
第三次（1時間）	⑤単元の初めと終わりの質問・感想を動画で比較し，よい聞き手について考えをまとめる。	■１時間目と４時間目の動画を比較し，話の中心をとらえた質問や感想を述べられるようになったことを実感させる。 ※本単元で学んだことを，今後の学習や・日常生活に生かしていこうとする態度が育まれるようにする。

本時の目標	話の中心に気を付けて聞き，内容に沿った質問をしたり，感想を述べたりすることができる。　（４／５時間目）【話すこと・聞くこと　エ】

学　習　活　動	
○前時までの学習を振り返る。 →よい聞き手になるために話を聞き合うことを想起する ○よい聞き手の条件を確認する。 ・話し手から多くの話を引き出す ・そのためには，話の中心に気を付けて聞く必要がある	「相手のことをよく知るため」という目的意識を明確にして，本時の学習に対して必要感をもたせることにより，児童の学習意欲が高まります。
課題　話の中心に気を付けて，質問や感想を伝え合い，相手のことをよく知ろう。	
○例として教師のスピーチを聞き，質問や感想を述べる。 →中心を捉えていた質問とそうでない質問を整理する ○交流の手順や留意点を確認して，交流する。（グループ）	教師の話の中心が何であったかを確認した後，児童から出た質問や感想を，「話の中心を捉えているか否か」で評価し，◎○△などに分類することで，その後のグループ交流の見通しがもてます。
【Ａさんのスピーチの後】 Ｂ：Ａさんの大好きなものはドッジボールなのですね。キャッチをするのが得意だからという理由でしたが，**何か練習はしているのですか。** Ａ：休み時間や放課後に，Ｆさんとグラウンドで練習しました。 Ｃ：私はドッジボールが少し苦手です。**上手になるための方法はありますか。** Ｂ：ボールが来るときには，背中を向けないで，ボールを見るといいと思います。そうすれば，当てられることが減り，上手になると思います。 Ｄ：ぼくもドッジボールが好きなのですが，**キャッチをするときに両手でボールを受け止めるとよいと初めて知りました。**…（交流は続く）	「自分の経験や知識と関連付ける」「話の中心を詳しくする」など，よい質問・感想例を全体交流で共有・価値付けし，２回目以降の交流に生かします。
○交流を通して気付いたことを確認する。（グループ） ○交流を通して気付いたことを確認する。（全体） →スピーチする児童を交代し交流を再開する	**言語技術　〔総括的に見通す〕** **「相手のことをよく知るためには，どんなことに気を付けて聞けばよかったのかな」**
○学習を振り返る。（全体） →板書を生かし，話の中心を捉えた質問や感想を評価する ○学習を振り返る。（個人）	個人の振り返りが本時の目標と正対するよう，全体の交流において観点を明確にします。
振り返り（例） **話の中心に気を付けながら聞き，話に合った質問や感想を言うことができた。この聞き方をすると，友だちのことがとてもよく分かった。**	

目指す単元のゴール（児童の「単元の振り返り」例）

・話の内容に沿った質問をしたり，自分で考えた感想を述べたりするためには，話の中心に気を付け，相手が伝えたいことを自分の経験や知識と比べながら聞くことが大切だと分かった。
・話を聞くときに気を付けることが分かったので，これからの学習や生活で話を聞くときに役立てていきたい。

課題の改善策２

小学校国語Ｂ

学習指導要領における領域・内容
〔第５学年及び第６学年〕書ウ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小Ｂ２二　目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くことができるかどうかをみる。

「かみかみあえ」のむし歯を防ぐ効果に着目して【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて，【おすすめする文章】を書く。

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！

①【紹介する文章】から「よくかむこと」について取り上げて書くことはできているが，【保健室の先生から分かったこと】から適切な内容を取り上げて書くことができていない。

②「むし歯を防ぐ効果」に着目することはできているが，【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から適切な内容を取り上げて書くことができていない。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・目的や必要に応じ，書こうとすることの中心を明確にして，記述する力。（小３，４　書くこと　ウ）

・目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書く力。（小５，６　書くこと　ウ）

＜授業プラン＞

第４学年「本で調べて，ほうこくする文章を書こう」教科書下Ｐ９４

単元を通して身に付けさせたい力

〇書くために必要な事柄を調べ，調べて分かったことを明確にして文章を書く力（書くこと　ウ）

単元を通して行う言語活動：本で調べて、報告する文章を書く。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①報告文を書く目的を考え，学習計画を立てる。	■教科書の例文等を示し，学習計画を示す。 ※単元の計画を具体化することで「書けそう」という思いをもたせる。
第二次（11時間）	②～④生活の中で不思議に思った事柄を話し合い，調べることを決める。	■自分で調べることが見つけられない場合は，P96 を参考にして考えさせる。 ※その他に，どの子でもイメージを持ちやすい身近なテーマを複数準備する。
	⑤～⑦調べたいことを事典や図鑑などの本から探して読み，報告書に書く情報を集める。	■探している本が見つけられない場合は，教師や学校司書が助言する。
	⑧複数の情報を関係付け，整理する方法を身に付ける。	■次時以降の活動に必要な力を習得するための時間である。
	⑨～⑫調べたことを整理して，組立てメモをつくる。報告書を下書きし，交流する。	■問いに対する答えにつながるように，場面ごとに何を書けばよいのかを考える活動を全体で行い，活動の見通しをもたせる。 ※書き出し等，つまずきが予想される部分では，いくつかの文例を提示し選ばせる。
第三次（3時間）	⑬⑭報告書の下書きを推敲して清書をする。	■児童が間違いやすいポイントを盛り込んだ文章をモデルにし，推敲のポイントを明確にする。 ■内容や書き方の工夫についての感想や意見を，付箋紙などに書かせる。
	⑮報告書を互いに読み合い，感想や意見などを交流する。	

本時の目標	複数の資料から必要な情報を取り上げて，それらを関係付けて理解したり表現したりすることができる。　（８／１５時間目）【書くこと　ウ】

学　習　活　動	
○学習計画表を用いて，前時までの学習活動を確認する。 →複数の本から集めた情報を整理する方法を知り，自分の報告書に生かせるようにしたい ○本時の学習活動を知る。 ・教師が用意した，教科書に例として示されている「お金の歴史」に関係する複数の資料を用いて，必要な情報の整理の仕方を学ぶ。 →共通点に着目すればよい	**言語技術**　〔共通点・相違点を見いだす〕 「複数の資料から必要な情報を見付けるためには，どのような点に着目したらよいだろうか」
課題　複数の資料から共通点を探して，必要な情報をまとめよう。	
○複数の資料から共通点を探す。（個人） ○交流する。（グループ） Ａ：まず，大昔の時代について考えよう。**どんな共通点が見つかったかな。** Ｂ：１つ目の資料には，ほしい物を手に入れるために物々交換をしていたと書いてあるよ。 Ｃ：２つ目の資料にも物々交換をしていたとあるよ。ほしい物と貝殻や石，布，塩，米などが使われていたみたいだよ。 Ｄ：１つ目の資料には，具体的に貝，イネ，穀物，麻布などと交換していたと書かれているわ。 Ｃ：やがて金属，特に金，銀，銅が貴重で持ち運びが楽という理由で，貨幣として用いられたみたいだね。 Ａ：**２つの資料をまとめる**とどうなるかな。 Ｂ：「大昔の時代は，ほしい物を手に入れるために物々交換をしていた。それには貝殻や石，穀物，麻布などが使われた。生の魚や肉は腐りやすいため使われなかった。やがて，金，銀，銅が貨幣として使われるようになった。」はどうかな。 Ａ：わかりやすいね。では，**他の時代にも共通点はあったかな。**… （交流は続く）	児童の発達段階や実態を踏まえ ・司会が，時代ごとに区切りながら見付けた共通点を確認すること ・複数の資料の共通点を整理すること ・グループの交流の時間 などを明確にし，十分に見通しをもたせてから交流させます。 教科書で求められている「複数の本を読む」ために，最低でも１冊は事典，もう１冊は書籍から選ぶとよいでしょう。 【選書例】 ①総合百科事典ポプラディア新訂版 2【う・え・お・かぞ】 発行者：坂井宏先 発行所：株式会社ポプラ社 ２０１１年１月　第１刷発行 ②池上彰のはじめてのお金の教科書 著者：池上彰　　発行所：幻冬舎 ２０１８年９月７日　初版発行
○見付けた共通点や整理した情報を交流する。（全体） ○本時の学習を振り返る。 **振り返り（例）** **複数の本にある情報を関係付けると，必要な情報を整理できることが分かった。自分が集めた情報もこの方法で整理できそうだ。**	各グループから出された意見をもとに，拡大資料を用いて，語句と語句を線でつないだり，重要な語句（キーワード）を丸で囲んだりするなどして，視覚的に情報を整理します。

目指す単元のゴール（児童の「単元の振り返り」例）

・事典や本などから得られた複数の情報を関係付けて考えることで，必要な情報を整理できることができて，うれしかった。
・報告書の型を知り，組み立てを考えながら書き上げることができた。社会見学のまとめや総合的な学習の調べ学習にも生かせそうだ。

課題の改善策３

中学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
中Ｂ１三　目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかどうかをみる。
文章を読み，複数の叙述を根拠として「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第１学年〕書ウ
〔第１学年〕読イ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！

① 「理由」にかかわる複数の叙述を文章から捉えられていない。
② 「理由」にかかわる複数の叙述があったが，片方しか書けていない。

＜身につけさせたい資質・能力＞

・段落相互の関係を捉えながら，条件に合う内容を読みとる力。（中１　読むこと　イ）
・伝えたい内容を明確にし，複数の根拠を整理して書く力。　（中１　書くこと　ウ）

＜授業プラン＞

第１学年「幻の魚は生きていた」教科書Ｐ１６４

単元を通して身に付けさせたい力

〇文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け，中心となる部分に着目して要旨を捉える力（読むこと イ）

単元を通して行う言語活動：新入生に紹介するリーフレットを作成する。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①リーフレットを作ることに興味をもち，「単元を通した言語活動」を知るとともに，要旨を捉える学習の必要感をもつ。	■道の駅などに置かれているリーフレットを交流し，本教材もリーフレットにすれば分かりやすいのでは，ということを実感させる。 ※リーフレットを作成するためには，文章を要約したり，要点を捉えたりして読むことが必要であることに気付かせ，第２次の学びの必要感をもたせる。
第二次（3時間）	②③本論の中心となる部分を捉え，序論にある問題提起Ⅰ及びⅡに対する説明を要約する。 ④結論の中心となる部分を捉え，筆者の考えを読み取り，自分の考えを書く。	■第３次で作成するリーフレットに記載する内容であることを意識させることにより，目的意識をもって，課題に取り組むことができるようにする。 ※３時間とも，個人思考→グループ交流→全体交流→個人思考，の流れで学習することにより，見通しをもって課題に取り組むことができるようにする。
第三次（2時間）	⑤⑥第２次の学びを生かして，リーフレットを作成し，交流する。	■第２次で積み重ねてきた自分の考えを改めて見直し，改善しながらリーフレットを作成する。 ※活動を通して，要旨を捉えて読む力が付いたことや，そのような読み方の価値に気付かせる。

本時の目標	本論の中心となる部分に着目して要旨をまとめることができる。 （３／６時間目）【読むこと　イ】

学　習　活　動	
○これまでの学習を想起し，本時の学習活動を確認する。 →「幻の魚は生きていた」のリーフレットを作成するために，問題提起Ⅱに対する筆者の説明を要約する ○前時の学習を振り返り，序論から，筆者の問題提起Ⅱを確認する。 ○条件を確認する。 ①必要な叙述を落とさずにまとめる ②字数は，５０字以上６０字以内とする	問題提起Ⅰに対する筆者の考えを要約した前時の活動を想起させることにより，「できそうだ」という見通しと意欲をもたせます。 **言語技術**　〔複数条件を明確化する〕 「目的に合ったリーフレットにするために，この要約にはどのような条件が必要ですか」
課題　本論の中心となる部分に着目して，問題提起Ⅱに対する説明を要約しよう。	
○本論を読んで必要な叙述にサイドラインを引き，要約する。（個人） ※授業の終末に要約できるようになればよいことを伝え，難しい場合は字数以内にまとめられなくてもよいこととする。 ○交流する。（グループ） 【要約の交流が終わった後】 Ａ：「卵が譲渡」されていた部分はみんな要約に入れていたね。 Ｂ：Ａさんはさらに，「水深」のところを具体的に要約に入れているけど，**字数がオーバーしているね。** Ｃ：Ｂさんは「生存できる条件」の箇所を要約に活用しているね。**私は「水温」の部分も要約に入れたんだけど，どの箇所が大切なのかな。** Ａ：字数以内にまとめるために，具体的な数字は入れないほうがいいね。また，「水深」や「水温」は，「生存できる条件」に含まれているんじゃないかな･･･（交流は続く）	全ての生徒が，自分なりに課題に取り組むことができるよう，配慮します。 それぞれの生徒が，サイドラインを引いた叙述を出し合うことで考えを広げた後，字数との関わりの中で，必須となる情報は何かといった視点で考えを収束できるよう話合いを進めます。
○交流を通して気付いたことを確認する。（全体） ○交流を通して確認した要約に必須となる叙述をもとに，条件に従って再度要約する。（個人） ○本時の学習を振り返る。 **振り返り（例）** 本論の中心となる情報とそうでない情報を整理して，与えられた条件の中で必要な情報を落とさず要約できた。	**言語技術**　〔仮定する〕 「もし，この情報が抜けていたら，筆者の考えが十分伝わらない，と考えられる情報は何かな」 交流前の自分の要約と終末の要約を比較させることにより，自分の成長やできるようになったことを実感させます。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

- リーフレットづくりを通して，目的に応じて的確に要点をとらえて読むことが大切であることが分かった。今後も要点を意識しながら読んでいきたい。
- 良いリーフレットができたのは，文章から捉えた要点を整理してまとめることができたからである。今後も根拠を整理して書くことを大切にしていきたい。

課題の改善策４

中学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

中Ｂ３三　相手に的確に伝わるように，あらすじを捉えて書くことができるかどうかをみる。

読み手に内容が的確に伝わるように，話の展開を取り上げて，古典を現代語訳した文章のあらすじを書く。

学習指導要領における領域・内容

〔第１学年〕書ウ
〔第１学年〕読イ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！

①登場人物の設定や置かれている状況，発言の意図を理解しながら読むことができなかった。
②「話の展開を取り上げて書く」という記述条件に対応できなかった。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

・場面の展開や登場人物の描写に注意して内容を捉える力。（中１　読むこと　イ）
・伝えるべき事項を整理し，条件を意識して書き表す力。（中１　書くこと　ウ）

＜授業プラン＞

第１学年「少年の日の思い出」Ｐ２０２

単元を通して身に付けさせたい力

〇物語の転換点を理解し，その前後の登場人物の変化を捉える力。（読むこと　イ）

	＜主な学習活動＞	単元を通して行う言語活動	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①単元を通して行う言語活動を知り，あらすじ（案）を書く。	小学生に物語を紹介する「帯」を書く。	■本の「帯」の実物を数例示すことにより，あらすじや自分の感想を書くことの見通しをもたせる。 ■あらすじ（案）を書いてみることにより，登場人物の心情の変化など，場面相互の関係を捉えることが必要であることに気付かせ，第２次の学びの必要感をもたせる。
第二次（3時間）	②主人公「ぼく」の心情の変化を捉える。		■事件の展開と解決など大きな構成要素を踏まえて，心情変化を捉える。
	③あらすじを書くために必要な要素について話し合い，あらすじを書き直す。		■既習教材「星の花が降るころに」のあらすじを２例，示す。 ※グッドモデルとエラーモデルを示すことにより，物語の転換点とその前後の変化を示すことの必要性に気付かせる。
	④主人公「ぼく」に対する自分の考えを書く。		■本文の複数の叙述を根拠にして，考えを書かせる。 ※条件を踏まえていれば，多様な考えを認め，価値付ける。
第三次（2時間）	⑤⑥作成した本の「帯」を読み合い，条件を満たして書けているか等を相互に評価する。		■交流を通して助言し合いながら「帯」を作成する。 ■はじめに書いたあらすじ（案）と，学習を通じて書き改めた紹介文を比較することで，単元の学習の成果を実感させる。

本時の目標	物語の情報を整理し，物語の展開上，重要な情報を読み取ることができる。 （３／７時間目）　【読むこと　イ】

学　習　活　動	
○前時までの活動を確認する。 ○あらすじを書くための条件を確認する。 ①物語を読んだことのない小学生に伝わるように表現する。 ②１５０字以上２００字以内で表現する。	「紹介する」という目的意識，「小学生」という相手意識，「帯」という方法意識をもたせ，条件を確認します。
課題　あらすじを書くために必要な要素を理解し，条件に合わせてあらすじを書こう。	
○「星の花が降るころに」の２つのあらすじを例示し，それらを比較することで，あらすじを書くために必要な要素を明らかにする。（全体） →物語の転換点とその前後の変化を示すことが必要 ○必要な要素を踏まえて，あらすじを書く。（個人） ○それぞれが書いたあらすじに必要な要素が踏まえられているか，条件に合っているかを確認する。（グループ）	**言語技術**　〔視点を転換させる〕「この物語を知らない小学生がこのあらすじを読んだとしたら，内容が十分伝わるだろうか」 エラーモデルとグッドモデルを比較させることで，必要な要素に気付かせます。
【各自で読み合い，付箋を貼った後】 Ａ：ＢさんとＤさんは，物語の転換点をエーミールの「結構だよ。…」という言葉だと考えたんだね。 Ｂ：「ぼく」が大切に収集していたちょうを全て押しつぶしてしまうきっかけになったのは，その言葉だと考えたんだ。 Ｃ：自分は，「ぼく」がエーミールのちょうを盗んでしまった場面が転換点だと考えたよ。 Ｄ：小学生に内容を分かりやすく伝えるためには，どちらも必要な叙述かも知れないね。…（交流は続く）	一人ずつ順番に，それぞれが書いたあらすじを回し読みしながら気付いたことを付箋に書いて貼り，全員のあらすじを読み終わった後で付箋の記述を基に話し合うと，互いの意見を関係付けながら整理することができます。
○自分が書いたあらすじを手直しする。（個人） ○本時の学習を振り返る。 **振り返り（例）** **物語の転換点を軸にしてあらすじを捉えることによって，必要な情報を整理して表現できることが分かった。**	本時の終末で完成させた「あらすじ」と第１次で書いた「あらすじ（案）」とを比較させることにより，自分の成長に気付かせたり，転換点に着目して物語を読むことなど，今後に活用できる読み方の価値を実感させたりすることができます。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

- 事件を通じて主人公にどのような変化があったのかを捉えることで，物語の展開をよりよく理解することができるようになった。
- 主人公の事件前後の変化は物語の主題に直結する場合も多いため，今後も文学作品を読む際は，物語の中心となる事件に着目したい。
- 「物語を知らない人に紹介するためには，どんな内容を伝えたらよいか」という視点で読むことにより，必要な叙述を考えながらあらすじを捉えられることが分かった。

「知識及び技能」の指導のポイント

小・中学校国語Ａ

文の定義

【過去の設問等から浮かびあがった課題】

・文の定義を理解し，文のはじめと文の終わりを適切に捉えること。

指導のポイント

★ひとまとまりの内容を表すひと続きの言葉を文といい，文の最後に「。（句点）」を付けることを指導しましょう。

★文章の中から任意の文を探す学習において，文のはじめの数文字や終わりの数文字を示させる活動を取り入れましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第１学年「すきなこと，なあに」

☆ 中学校第１学年「文法１　言葉の単位」

確かめよう!

☆Ｈ２０中学校　Ａ５一

☆Ｈ２５小学校　Ａ３一

手紙の後付け

【過去の設問等から浮かびあがった課題】

・手紙の書き方を理解して書くこと。

・手紙の構成を理解して書くこと。

指導のポイント

★「相手の名前は敬意を表すために高い位置に書く」など，意図を理解させながら，手紙を書く活動を行いましょう。

★総合的な学習の時間における礼状を書く活動など，実際の場面で活用しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第３学年 「『ありがとう』をつたえよう」

☆ 小学校第３学年 書写「手紙の書き方」

☆ 中学校第２学年 「気持ちを込めて書こう」

確かめよう!

☆ Ｈ２４小学校　Ｂ１三

☆ Ｈ２７中学校　Ａ９六

☆ Ｈ２９小学校　Ａ２二

主語と述語

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
・目的に応じ，表現の効果を考えて文を書き換えること。
・文の中における主語を捉えること。

指導のポイント

★小学校第２学年で，主語「だれは（が）」「何が（は）」，述語「どうする」「どんなだ」「なんだ」を指導します。
★「主語＝人，生き物」といった誤った認識をもつ場合がありますので，留意しましょう。
★日常の学習においても，主語と述語がねじれないように意識して話したり，書いたりできるよう指導しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第２学年 「主語と述語」
☆ 小学校第５学年 「分かりやすく伝える」
☆ 中学校第１学年 「文法２　文の組み立て」
☆ 中学校第２学年 「推敲して適切な文章に直す」

確かめよう!

☆ H27小学校　A2ー
☆ H30小学校　A5
☆ H30中学校　A8四2

ローマ字

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
・ローマ字で書いたり，ローマ字を読んだりすること。

指導のポイント

★身近な生活から探すなど，有用感をもたせる工夫をしましょう。
★当該単元のみの指導にとどまらず定期的に定着の度合いを確認しましょう。
★コンピュータの入力とローマ字表記で異なる点について，理解させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第３学年「ローマ字」
☆ 小学校第３学年「コンピュータのローマ字入力」

確かめよう!

☆ H21小学校　A2123
☆ H28小学校　A8123

語彙・辞典の活用

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解すること。
- 漢字辞典を活用し，漢字が表している意味を正しく捉えること。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。

指導のポイント

★国語辞典においては，「は」や「ひ」等について，「清音」「濁音」「半濁音」の順番になっていることを指導しましょう。
★漢字辞典を新出漢字の学習で活用するなど，活用の仕方や活用することの有用性についても指導しましょう。
★いつでも国語辞典や漢字辞典を使用できる学習環境を整え，様々な場面で主体的に活用させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第3学年 「国語辞典のつかい方」
☆ 小学校第4学年 「漢字辞典の使い方」
☆ 中学校第1学年 「調べたことを報告しよう」

確かめよう!

☆ H26小学校 A8四
☆ H28中学校 A9四アイ
☆ H29中学校 A9五

接続語

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 接続後を意識して，必要な情報を一文にまとめて書くこと。
- 文と文の意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くこと。

指導のポイント

★接続語の理解を図るだけではなく，接続語を使って１つの文を２つの文に分ける，２つの文を１つの文にまとめるなどの書く活動を十分保障しましょう。
★日常の書く活動においても，この視点を意識して推敲させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第4学年「文と文をつなぐ言葉」
☆ 小学校第5学年「分かりやすく伝える」
☆ 中学校第1学年「指示する語句と接続する語句」

確かめよう!

☆H21小学校 A8
☆H22小学校 A4二
☆H25小学校 A3二（1）

慣用句

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- それぞれの慣用句の意味を理解すること。
- 慣用句の意味を理解した上で，適切に短文をつくること。

指導のポイント

★日常の読む活動においても，言葉の意味を確認したり，表現の効果について考えさせたりしましょう。
★日常の書く活動においても，相手に分かりやすく伝わるなどの効果を意識して，積極的に取り入れられるよう指導しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第4学年「慣用句」
☆ 中学校第3学年「慣用句・ことわざ・故事成語」

確かめよう!

☆H25小学校　A3二（1）
☆H27中学校　A9三イ
☆H30中学校　A8四2

引用

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 表現の工夫である「引用」を理解すること。
- 自分の考えの根拠とするなど，目的や意図に応じて必要な言葉や文を引用すること。

指導のポイント

★物語文から優れた表現に着目し，引用して感想を書く学習等を充実させましょう。
★引用する際は「　　」を用いることや正確に書き抜くことを指導しましょう。
★根拠を明確にするなどの引用の効果に気付かせ，日常の書く活動においても活用させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第5学年　「大造じいさんとガン」
☆ 小学校第6学年　「忘れられない言葉」
☆ 中学校第1学年　「私が選んだこの一冊」
☆ 中学校第2学年　「メディアと上手に付き合うために」

確かめよう!

☆ H25小学校　B2二
☆ H27小学校　A5二
☆ H30小学校　B3二

表現技法

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 比喩というと言葉と結び付けて，表現の仕方を理解すること。
- 比喩を用いた表現について理解すること。
- 表現の技法について理解すること。

指導のポイント

★学年の段階に応じて「擬音語」「擬態語」「比喩」などを教え，各学年で反復しながら習得を目指しましょう。
★物語文教材の中から表現技法を見付け，効果を考えさせる学習を計画的に位置付けましょう。
★日常の書く活動においても，積極的に活用させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第2学年 「ようすをあらわすことば」
☆ 中学校第1学年 「鑑賞文を書く」
☆ 中学校第1学年 「さまざまな表現技法」

確かめよう!

☆ H25中学校 A8七1
☆ H27中学校 A3一
☆ H29中学校 B1三

敬語

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。

指導のポイント

★尊敬語・謙譲語・丁寧語について理解した上で，相手や場面に応じて使い分けできるよう指導しましょう。
★家族は身内であることから，他者に伝える場合は謙譲語を用いることなど，誤用しそうな具体的な場面を取り上げて指導しましょう。
★日常の話す場面においても，使い方に誤りが見られたときはその場で取り上げて指導しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第5学年「敬語」
☆ 小学校第6学年「表現を選ぶ」
☆ 中学校第2学年「敬語」

確かめよう!

☆H22中学校 A10三エ
☆H24小学校 B1二
☆H30小学校 A7

書写

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 文字の形や大きさ，配列に気を付けて書くこと。
- 行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

指導のポイント

★日常のポスターやリーフレットなどを書く活動において，文字の形や大きさ，配列に気をつけて書く指導を行いましょう。
★楷書と行書の特徴を理解させ，それぞれの長所を実感させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第４学年 「文字の大きさと配列を考えて書こう」
☆ 中学校第１学年 「行書で書いてみよう－行書の特徴－」
☆ 中学校第２学年 「学習活動や日常生活に生かして書こう」

確かめよう!

☆Ｈ２２中学校　Ａ１０七
☆Ｈ２８中学校　Ａ９六
☆Ｈ３０中学校　Ａ８五

品詞

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 単語の類別について理解すること。

指導のポイント

★小学校第３学年では，「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」の３つに分類していますが，「動詞」「形容詞」「名詞」などの用語についても，早い段階から指導し，繰り返し学習することが大切です。

指導に適した題材

☆ 小学校第3学年 「言葉を分類する」
☆ 中学校第１学年 「単語の性質を見つけよう」
☆ 中学校第2学年 「単語をどう分ける？」

確かめよう!

☆ Ｈ27中学校　Ａ９四①②

単元編　国語科の授業づくりのステップ

Step1　目標とゴールの明確化（指導事項の明確化）

各学校の教育課程からその単元で身に付けさせたい指導事項を明確にし，単元の目標を設定しましょう。複数の指導事項が示されている場合は，重点を置く指導事項を決め，身に付けさせたい力をより焦点化することが大切です。

併せて，その目標を達成した児童生徒のゴールの姿を明確にしましょう。単元の終末における理想の振り返りを具体的にイメージすることで，身に付けさせたい力やその力を身に付けさせるために必要となる手立てが明らかになります。

指導事項
↓
単元の目標
↓
単元のゴール

Step2　単元を通して行う言語活動の設定

単元を通して，Ｓｔｅｐ１で明確にした目標とする力を身に付け，目指すゴールの姿へ到達させるための言語活動を設定します。言語活動を設定する際には右の４つのポイントに留意することが大切です。

言語活動が決まったら，指導者自身がその言語活動を実際に行ってみることが重要です。実際に行うことで，児童生徒がつまずきそうな点を知ることができ，そのための手立てを工夫することにつながります。単元の導入で学習モデルとして児童生徒に提示することも見通しをもたせるために有効な手立てとなります。

- 身に付けさせたい力が身に付く言語活動
- 「やってみたい」，「面白そうだ」を喚起する言語活動
- 児童生徒の実態を踏まえた言語活動
- 汎用性があり，生活場面で活用可能な言語活動

Step3　単元の指導計画の作成

第１次では，児童生徒の興味・関心を高める工夫をしたり，学習モデルを提示するなどして単元の見通しや学習への必要感をもたせたりすることが大切です。

第２次では，単元を通して行う言語活動と結び付いた学習活動を通して，単元の目標となる言葉の力を身に付けさせることが必要です。言語活動自体が目的化しないよう，各時間において，どの指導事項を指導するのかを明確にすることも大切です。

第３次では，単元を通した作成物や表現活動を交流したり，改めて見直したりすることで，自分にどんな力が身に付いたのか，何ができるようになったのかを明らかにさせることが大切です。また，身に付けた力を活用できる場面をイメージさせることにより，今後の学習や生活場面に生かそうとする態度を育むことも大切です。

第１次
- ○単元の見通し
- ○必要感・意欲化

第２次
- ○単元を通した言語活動との関連
- ○指導事項の明確化

第３次
- ○身に付けた力の自覚
- ○活用しようとする態度

本時編　国語科の授業づくりのステップ

導入　本時の見通しをもたせる

単元の目標を達成するための本時の目標を設定し，目標の達成につながる学習課題を設定します。本時の目標を設定する際は，どの指導事項に基づくかを明確にすることが必要です。

児童生徒に学習課題を提示する際には，単元の学習計画表等を使って，単元全体の課題解決のために本時がどのような意味をもつかについて意識させることも大切です。

課題の設定に当たっては，「〇〇しよう」という活動のみを示すのではなく，学習活動の方法と目的に加え，目標の達成に向けた視点を明確にすることにより，「できそうだ」「やってみたい」という意欲が高まり，主体的な学びの実現につながります。

モデルの提示

グッドモデルやバッドモデル，エラーモデルなどを示すことにより，学習活動の方法や本時の課題解決に向けた視点を明確にし，見通しもたせることができます。

条件の明示

課題設定の際，例えば次のような条件を明らかにすることにより，課題解決の視点が明確になります。

〇考えとその根拠を明確にする　〇字数を制限する
〇資料から引用する　〇複数の叙述を根拠とする

５つの言語意識

見通しをもたせる際，次のような言語意識をもたせることも大切です。

①目的意識　②相手意識　③方法意識
④場面・条件意識　⑤評価意識

展開　課題を解決させる

展開場面では，課題の解決に向けて，個人で思考する場面とともに，対話を通して考えを広げ深めることが大切です。

また，交流の後，自分が一度，言葉で表現したり理解したりした内容を改めて捉え直すことにより，考えを深めることにつながります。

学習形態

ペア，グループ，全体などねらいに合った学習形態を取り入れることが大切です。その際，方法や目的，条件などの視点を明らかにしてから活動させましょう。

発問・指示

児童生徒の思考の状況に応じて，新たな視点を示したり，課題解決に向けて方向付けたりすることが大切です。

終末　身に付けた力を自覚させる

終末場面において，いわゆる「課題に正対した『まとめ』」に固執する必要はありません。１時間の学びを通して，本時の目標と正対して，自分にどのくらい力が付いたか，何ができるようになったかを自覚できるよう振り返らせましょう。そのためには，導入場面で児童生徒に本時のゴールの姿を明確にしておくことや，振り返りを行う際に教師が観点を明示することが大切です。また，児童生徒が授業の冒頭と終末における自分の変容を視覚的に捉えられるよう工夫することも大切です。

国語科の授業改善のポイント

Ｐ１６，１７の「国語科の授業づくりのステップ」に合わせて，授業づくりを行いましょう。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のポイント

見通し　活動や方法のみにとどまらず，「できそうだ」「やってみたい」という意欲を高められるよう，目的意識や必要感をもたせる工夫をしましょう。

対話　対話や交流自体が目的化しないよう留意し，目標の達成に向け，考えが広がったり深まったりするよう，論点を設定しましょう。

振り返り　目標に正対し，身に付けた力を実感したり，その力を今後に生かそうとする意欲をもったりできるよう，観点を明確に示しましょう。

授業例

中学校第１学年「星の花が降るころに」Ｐ９６

Step1　指導事項を基にして焦点化しましょう。

単元を通して身に付けさせたい力

○登場人物や情景の描写，場面の展開に着目して作品を読み，登場人物のものの見方や感じ方について，自分の考えをまとめる力（読むこと ウ）

Step2　身に付けさせたい力を付けるのに最適な言語活動を設定しましょう。

単元を通して行う言語活動

登場人物像を捉え、アフターストーリーを創作する。

第一次（1時間）

＜主な学習活動＞

①アフターストーリーを考えることに興味をもち，「単元を通した言語活動」を知るとともに，登場人物像を捉える学習の必要感をもつ。

Step3　見通し

○小学校第５学年で学習した「大造じいさんとガン」のアフターストーリーを考え交流する。
○その際，教師が，大造じいさんの人間性と結び付かないバッドモデルを提示することにより，よいアフターストーリーを創作するためには，人物像を捉えることが必要であることに気付かせ，本教材の人物像を捉える第２次の学びの必要感をもたせる。

第二次（3時間）

②場面の展開に沿って「私」の心情の変化を読むために，根拠となる描写について話し合う。

③④情景・行動等の叙述に着目し，登場人物の心情や人物像を捉える。

Step3

第３次でアフターストーリーを創作し，語り合うことを意識させ，目的意識をもって，場面の展開による人物の心情変化や，人物像を捉えさせましょう。

第三次（1時間）

⑤単元の学びを生かして，捉えた人物像を踏まえたアフターストーリーを創作し，交流する。

Step3　振り返り

○アフターストーリーを創作する活動を通して，人物像を捉えて読む力が付いたことや，そうした読み方の価値に気付くことができるよう振り返らせる。

本時の目標	叙述に着目して登場人物の人物像を捉えることができる。 （4/5時間目）【読むこと　ウ】

指導事項を基にして焦点化しましょう。

学　習　活　動

○これまでの学習を想起し，本時の学習活動を確認する。
　→「星の花が降るころに」のアフターストーリーを創作するため対人物である「戸部君」の人物像を捉える。

見通し 単元を通して行う言語活動「アフターストーリーの創作」を想起させ，人物像を捉える本時の活動の必要感をもたせます。

○条件を確認する。
　①冒頭の一文を「戸部君は，○○な性格である。」とする。
　②複数の叙述を根拠として示す。
　③８０字以上１００字以内でまとめる。

見通し 本時の目標を達成するための観点を明確にするとともに，他の登場人物でモデルを示すなどして，「できそうだ」「やってみたい」という気持ちを高めます。

課題　叙述を根拠として，戸部君の人物像をとらえよう。

○課題に取り組む。（個人）
○考えを交流する。（グループ）

【それぞれの考えの交流が終わった後】
Ａ：戸部君はユーモアがある，というところはみんな共通で読み取っていたね。
Ｂ：Ｃさんは，それに加えて，「黙々とボールみがきをしている」という叙述からまじめな一面を感じているね。
Ｃ：Ａさんは，「サッカーボールは…使いたいときだけ使って，手入れをしないでいるのはだめなんだ」という戸部君のせりふから，つらい思いをしている主人公を元気づけようとするやさしさを捉えていて，なるほどなと思ったよ。…（交流は続く）

対話 対話させる目的を指導者が明確にもつことが大切です。本時の目標の達成に向かって話合いが深まるよう，「友だちが考えの根拠として示した叙述」を論点として，多様な叙述から様々な人物像を想像できることに気付かせます。話合いのモデルを示して，見通しをもたせる方法もあります。

○交流を通して，気付いたことなどを交流する。（全体）

言語技術　〔焦点化する〕
「交流を終えた今，戸部君の人物像を捉えるために，あなたが最も着目する叙述はどれですか」

○交流を通して深まった考えを生かして，もう一度，課題に取り組む。（個人）
○本時の学習を振り返る。

振り返り（例）
これまでよりも，たくさんの叙述に着目して，登場人物の人物像を深く捉えることができるようになった。

振り返り 目標に正対し，着目した叙述や捉えた人物像の深まりに気付くことができるよう，観点を明確に示して振り返りを記述させます。また，この読み方が「戸部君」だけでなく，他の物語の人物でも活用できることに気付かせます。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

- 情景描写から人物の心情を理解することができるようになったので，今後も文学作品を読む際は，情景描写に気を付けたい。
- その後の物語を考えながら読むことで，はじめは気付かなかった登場人物の人物像を示す叙述を見付けられることができて楽しかった。
- 人物像をとらえた根拠となる叙述について友達と交流することで，自分では気付かない叙述がたくさんあることが分かったので，今後の読書に生かしていきたい。

Step1
今後の学習や生活場面で活用できる汎用性のある力として，自分にどんな力が付いたかを自覚できるよう工夫することが大切です。

深い学びに導く教師の言語技術

授業において，児童生徒の思考を深めさせたり，思考が停滞した状況を改善させたりするためには，教師の発問・指示が重要であり，このことは，国語科に限らず教科横断的に活用できる教師の言語技術です。

児童生徒を深い学びに導くために，授業づくりの際，又は実際の授業場面において状況に応じて活用することが，どの教科の指導においても大切です。

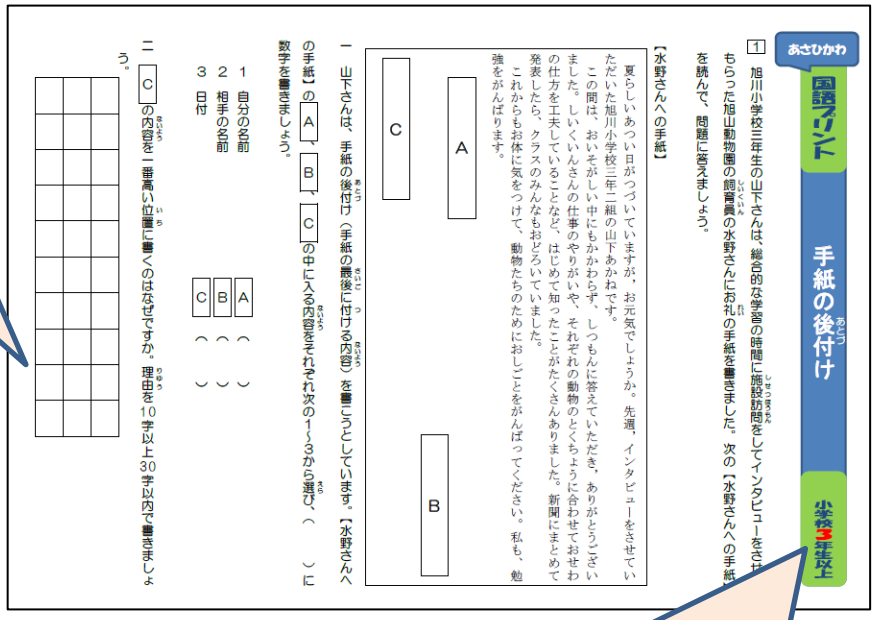
言語技術	児童生徒の思考の状況	教師の願い	働きかけの具体的な言葉
総括的に見通す	▲本時や単元の目標を見失っている ▲部分にこだわり，方向性を見いだせない	○目標・目的を想起させたい ○目的と手段を区別させたい	○この時間は，何が分かればよいのだったかな？ ○この単元では，どんなことにたどり着きたいのだったかな？ 例：相手のことをよく知るためには，どんなことに気をつけて聞けばよかったのかな？P３
共通点・相違点を見いだす	▲区別が曖昧になっている ▲比較ではなく，羅列としてしか認識できない	○比較して違いを明確にさせたい ○共通点を見いださせたい	○違いをはっきりさせよう。それは，何かな？ ○（２つ以上の事柄で）同じこと（似ていること）は，どんなことかな？ 例：複数の資料から必要な情報を見付けるためには，どのような点に着目したらよいだろうか？P５
焦点化する	▲軽重を付けることができない ▲１つを選ぶことができない	○焦点化し，序列を付けさせたい ○根拠をもって選ばせたい	○重要な順に整理して書きなさい。 ○最も条件に適しているものはどれですか？ 例：交流を終えた今，戸部君の人物像を捉えるために，あなたが最も着目する叙述はどれですか？P１９
仮定する	▲結果を予想できない ▲現状を手掛かりに，進展を想像することができない	○仮定を与え，変化を想像させたい ○仮定を吟味し，予想させたい	○もしも…ならば，どうなるかな？ ○仮に…であったなら，どう変わるだろうか？ 例：もし，この情報が抜けていたら，筆者の考えが十分伝わらない，と考えられる情報は何かな？P７
複数条件を明確化する	▲複数条件の重なりに思考が進まない ▲複数条件とするのは何のためなのか，考えが浮かばない	○複数条件を明確化したい ○複数条件とする必要性や必然性に気付かせたい	○忘れてはいけないことは，何と何かな？ ○条件が１つの場合と，２つの場合でどんな違いが生まれるかな？ 例：目的に合ったリーフレットにするために，この要約にはどのような条件が必要ですか？P７
関係性を見付ける	▲一方の変化の他方の変化への波及を捉えられない ▲両者の変化に思考が進まない	○両者の変化を動的に捉えさせたい ○両者の関係性を見付けさせたい	○～を変化させると，～はどう変わるだろうか？ ○両者の変化の様子から考えると，～と…はどのような関係といえるだろうか？ 例：「友だちが，私の家に来る。」の「友だち」を「校長先生」に変えると，「来る」はどう変わりますか？それは，なぜですか？
視点を転換させる	▲他の立場や視点で思考できず，行き詰まっている ▲新しい視点や考え方を見付けることができない	○視点を与え，想像させたい ○対話等により思考を広げ，新しい視点や認識を発見させたい	○～だったら，どう考えられるだろう？ ○別の視点から見た人や，新たな考え方を見付けた人はいないかな？ 例：この物語を知らない小学生がこのあらすじを読んだとしたら，内容が十分伝わるだろうか？P９

【旭川市版】国語学習プリント

過去１２回の全国学力・学習状況調査の結果分析から，本市の児童生徒に課題が見られる基礎的な知識・技能に関わる学習プリントを作成しました。これらの内容は，当該単元において学習した際には理解できているものの，その後の反復的な学習の機会が十分に得られなかったことが課題となった原因の１つと考えられます。

旭川市ＨＰからダウンロードして，必要なプリントのみを印刷することができますので，当該単元の学習後，長期休業中や学期末・年度末など様々な機会において，児童生徒の実態に合わせて御活用ください。

Ｐ１０～Ｐ１５で示している，旭川市の子どもたちの課題となっている基礎的な内容について，出題しています。


あさひかわ
国語プリント
手紙の後付け
小学校3年生以上

1 旭川小学校三年生の山下さんは、総合的な学習の時間に施設訪問をしてインタビューをさせてもらった旭山動物園の飼育員の水野さんにお礼の手紙を書きました。次の【水野さんへの手紙】を読んで、問題に答えましょう。

【水野さんへの手紙】

夏らしいあつい日がつづいていますが、お元気でしょうか。先週、インタビューをさせていただいた旭川小学校三年二組の山下あかねです。

この間は、おいそがしい中にもかかわらず、しつもんに答えていただき、ありがとうございました。しいくいんさんの仕事のやりがいや、それぞれの動物のとくちょうに合わせておせわの仕方を工夫していることなど、はじめて知ったことがたくさんありました。新聞にまとめて発表したら、クラスのみんなもおどろいていました。

これからもお体に気をつけて、動物たちのためにおしごとをがんばってください。私も、勉強をがんばります。

A

B

C

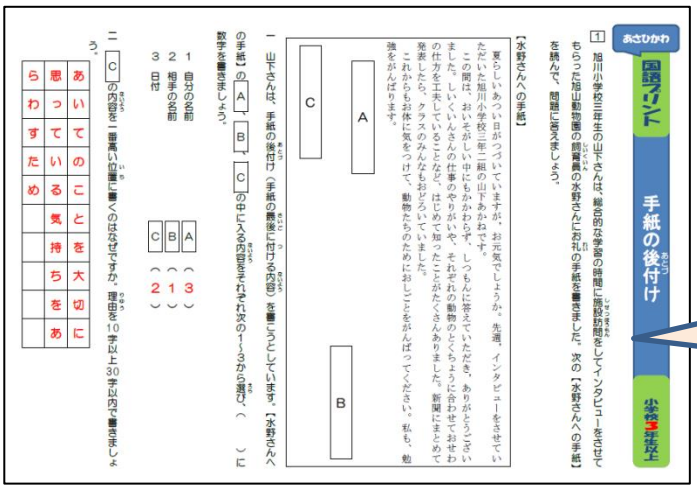
一 山下さんは、手紙の後付け（手紙の最後に付ける内容）を書こうとしています。【水野さんへの手紙】の A、B、C の中に入る内容をそれぞれ次の1～3から選び、（　）に数字を書きましょう。

1 自分の名前
2 相手の名前
3 日付

A（　）
B（　）
C（　）

二 C の内容を一番高い位置に書くのはなぜですか。理由を10字以上30字以内で書きましょう。

取り組むことが可能な学年が「〇年生以上」と示してあり，目安となりますが，どのプリントも小学校高学年や中学生にとっても大切な内容です。


あさひかわ
国語プリント
手紙の後付け
小学校3年生以上

1 旭川小学校三年生の山下さんは、総合的な学習の時間に施設訪問をしてインタビューをさせてもらった旭山動物園の飼育員の水野さんにお礼の手紙を書きました。次の【水野さんへの手紙】を読んで、問題に答えましょう。

【水野さんへの手紙】

夏らしいあつい日がつづいていますが、お元気でしょうか。先週、インタビューをさせていただいた旭川小学校三年二組の山下あかねです。

この間は、おいそがしい中にもかかわらず、しつもんに答えていただき、ありがとうございました。しいくいんさんの仕事のやりがいや、それぞれの動物のとくちょうに合わせておせわの仕方を工夫していることなど、はじめて知ったことがたくさんありました。新聞にまとめて発表したら、クラスのみんなもおどろいていました。

これからもお体に気をつけて、動物たちのためにおしごとをがんばってください。私も、勉強をがんばります。

A

B

C

一 山下さんは、手紙の後付け（手紙の最後に付ける内容）を書こうとしています。【水野さんへの手紙】の A、B、C の中に入る内容をそれぞれ次の1～3から選び、（　）に数字を書きましょう。

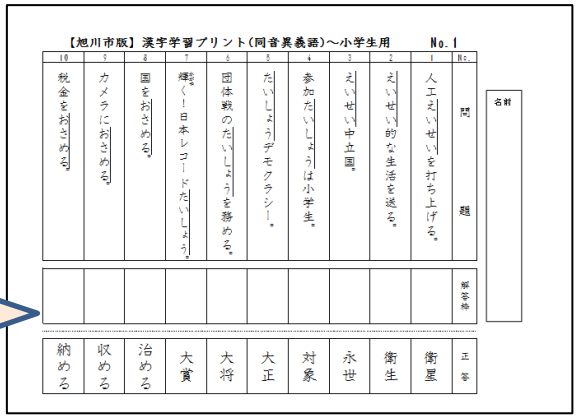
1 自分の名前
2 相手の名前
3 日付

A（3）
B（1）
C（2）

二 C の内容を一番高い位置に書くのはなぜですか。理由を10字以上30字以内で書きましょう。

あいてのことを大切に思っている気持ちをあらわすため

解答編もあるので，自学にも活用することが可能です。


【旭川市版】漢字学習プリント（同音異義語）～小学生用　No. 1

名前

No.	問題	解答欄	正答
1	人工えいせいを打ち上げる。		衛星
2	えいせい的な生活を送る。		衛生
3	えいせい中立国。		永世
4	参加たいしょうは小学生。		対象
5	たいしょうデモクラシー。		大正
6	団体戦のたいしょうを務める。		大将
7	輝く！日本レコードたいしょう。		大賞
8	国をおさめる。		治める
9	カメラにおさめる。		収める
10	税金をおさめる。		納める

「【旭川市版】漢字学習プリント」は，「平成２９年度全国学力・学習状況調査　結果報告書」からダウンロードすることができます。

小学校・中学校学習指導要領　国語　目標及び指導事項一覧表

【A　話すこと・聞くこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(1)　相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話す能力，大事なことを落とさないように聞く能力，話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1)　相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す能力，話の中心に気を付けて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1)　目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話す能力，相手の意図をつかみながら聞く能力，計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに，適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
	(1)　話すこと・聞くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
話題設定や取材	ア　身近なことや経験したことなどから話題を決め，必要な事柄を思い出すこと。	ア　関心のあることなどから話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモすること。	ア　考えたことや伝えたいことなどから話題を決め，収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	イ　相手に応じて，話す事柄を順序立て，丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ　姿勢や口形，声の大きさや速さなどに注意して，はっきりした発音で話すこと。	イ　相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ　相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ　目的や意図に応じて，事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら，場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ　共通語と方言との違いを理解し，また，必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	エ　大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞くこと。	エ　話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりすること。	エ　話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合うこと	オ　互いの話を集中して聞き，話題に沿って話し合うこと。	オ　互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合うこと。	オ　互いの立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(1)　目的や場面に応じ，日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力，話し手の意図を考えながら聞く能力，話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1)　目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力，考えを比べながら聞く能力，相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	(1)　目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力，表現の工夫を評価して聞く能力，課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
	(1)　話すこと・聞くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
話題設定や取材	ア　日常生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア　社会生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア　社会生活の中から話題を決め，自分の経験や知識を整理して考えをまとめ，語句や文を効果的に使い，資料などを活用して説得力のある話をすること。 イ　場の状況や相手の様子に応じて話すとともに，敬語を適切に使うこと。
話すこと	イ　全体と部分，事実と意見との関係に注意して話を構成し，相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ　話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，相手に分かりやすい語句の選択，相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ　異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し，論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ　目的や状況に応じて，資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	
聞くこと	エ　必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ　話の論理的な構成や展開などに注意して聞き，自分の考えと比較すること。	ウ　聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分のものの見方や考え方を深めたり，表現に生かしたりすること。
話し合うこと	オ　話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること。	オ　相手の立場や考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ　話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し，課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

【B　書くこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(2)　経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書こうとする態度を育てる。	(2)　相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに，適切に書こうとする態度を育てる。
	(1)　書くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	ア　関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べること。	ア　考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理すること。
構成	イ　自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ　文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ　自分の考えを明確に表現するため，文章全体の構成の効果を考えること。
記述	ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと。	ウ　書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ　文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ　事実と感想，意見などとを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ　引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書くこと。
推敲	エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いなどに気付き，正すこと。	オ　文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりすること。	オ　表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
交流	オ　書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合うこと。	カ　書いたものを発表し合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ　書いたものを発表し合い，表現の仕方に着目して助言し合うこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(2)　目的や意図に応じ，日常生活にかかわることなどについて，構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに，進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
	(1)　書くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア　日常生活の中から課題を決め，材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア　社会生活の中から課題を決め，多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア　社会生活の中から課題を決め，取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに，文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。
構成	イ　集めた材料を分類するなどして整理するとともに，段落の役割を考えて文章を構成すること。	イ　自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫すること。	
記述	ウ　伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	ウ　事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。	イ　論理の展開を工夫し，資料を適切に引用するなどして，説得力のある文章を書くこと。
推敲	エ　書いた文章を読み返し，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ　書いた文章を読み返し，語句や文の使い方，段落相互の関係などに注意して，読みやすく分かりやすい文章にすること。	ウ　書いた文章を読み返し，文章全体を整えること。
交流	オ　書いた文章を互いに読み合い，題材のとらえ方や材料の用い方，根拠の明確さなどについて意見を述べたり，自分の表現の参考にしたりすること。	オ　書いた文章を互いに読み合い，文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げること。	エ　書いた文章を互いに読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに，ものの見方や考え方を深めること。

【C　読むこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(3)　書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1)　読むことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
音読	ア　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア　自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方			イ　目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈	イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。	ウ　目的に応じ，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
文学的な文章の解釈	ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。	エ　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自分の考えの形成及び交流	エ　文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ　文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。	エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。 オ　文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ　本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。
目的に応じた読書	カ　楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(3)　目的や意図に応じ，様々な本や文章などを読み，内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに，読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	(3)　目的や意図に応じ，文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力，広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに，読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	(3)　目的や意図に応じ，文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。
	(1)　読むことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
語句の意味の理解	ア　文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること。	ア　抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	ア　文脈の中における語句の効果的な使い方など，表現上の工夫に注意して読むこと。
文章の解釈	イ　文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること。	イ　文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。	イ　文章の論理の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，内容の理解に役立てること。
自分の考えの形成	エ　文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。 オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること。	ウ　文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 エ　文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	ウ　文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること。 エ　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。
読書と情報活用	カ　本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること。	オ　多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て，自分の考えをまとめること。	オ　目的に応じて本や文章などを読み，知識を広げたり，自分の考えを深めたりすること。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して，次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ｱ) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり，発表し合ったりすること。	(ｱ) 易しい文語調の短歌や俳句について，情景を思い浮かべたり，リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (ｲ) 長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。	(ｱ) 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章について，内容の大体を知り，音読すること。 (ｲ) 古典について解説した文章を読み，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ｱ) 言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (ｲ) 音節と文字との関係や，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 (ｳ) 言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (ｴ) 長音，拗音，促音，撥音などの表記ができ，助詞の「は」,「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (ｵ) 句読点の打ち方や，かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。 (ｶ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。 (ｷ) 敬体で書かれた文章に慣れること。	(ｱ) 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (ｲ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ｳ) 送り仮名に注意して書き，また，活用についての意識をもつこと。 (ｴ) 句読点を適切に打ち，また，段落の始め，会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 (ｵ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し，また，語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 (ｶ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べる方法を理解し，調べる習慣を付けること。 (ｷ) 修飾と被修飾との関係など，文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (ｸ) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使うこと。	(ｱ) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (ｲ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 (ｳ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 (ｴ) 語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。 (ｵ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (ｶ) 語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 (ｷ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 (ｸ) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 (ｹ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
ウ 文字に関する事項	(ｱ) 平仮名及び片仮名を読み，書くこと。また，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。 (ｲ) 第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｳ) 第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，また，ローマ字で書くこと。 (ｲ) 第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｳ) 漢字のへん，つくりなどの構成についての知識をもつこと。	(ｱ) 第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｲ) 仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して，次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ｱ) 文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること。 (ｲ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	(ｱ) 作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界を楽しむこと。 (ｲ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像すること。	(ｱ) 歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむこと。 (ｲ) 古典の一節を引用するなどして，古典に関する簡単な文章を書くこと。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ｱ) 音声の働きや仕組みについて関心をもち，理解を深めること。 (ｲ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くこと。 (ｳ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに，話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 (ｴ) 単語の類別について理解し，指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 (ｵ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。	(ｱ) 話し言葉と書き言葉との違い，共通語と方言の果たす役割，敬語の働きなどについて理解すること。 (ｲ) 抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにすること。 (ｳ) 文の中の文の成分の順序や照応，文の構成などについて考えること。 (ｴ) 単語の活用について理解し，助詞や助動詞などの働きに注意すること。 (ｵ) 相手や目的に応じて，話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。	(ｱ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに，敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 (ｲ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ，和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し，語感を磨き語彙を豊かにすること。
ウ 文字に関する事項	(ｱ) 小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え，その他の常用漢字のうち 250 字程度から 300 字程度までの漢字を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第１学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち 300 字程度から 350 字程度までの漢字を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第２学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字の大体を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について，文や文章の中で使い慣れること。